

地域連携室だより

ハイライト

- ・在宅ケア研修会に参加してきました！
- ・MSWちょこっとコラム 地域包括ケアシステムって？
- ・NEW FACE 新入職員のご紹介
- ・編集後記

在宅ケア研究会に参加してきました！

在宅ケア研修会とは、市内の在宅ケアを支える開業医や訪問看護、ケアマネージャー、薬剤師、医療ソーシャルワーカーなどが有志で集まって勉強会をしたり意見交換を行っている会で、毎月開催しています。

7月は「どのように生きて、どのように最期を迎えるか？」と題し、岩手県の真宗大谷派碧祥寺住職で特別養護老人ホーム光寿苑総合施設長の太田宣承さんの講演を聞いてきました。

お話しの中で印象的だった言葉を少しご紹介します。

“よく挫折した！おめでとう♪”

演者の太田宣承さんが高校生の時、“お寺の息子”というラベルと“勉強が苦手”という現実から、“お寺の息子なのに勉強ができないのね”という周囲の目に苦しみとうとう学校に行けなくなってしまいました。そんな時にお父さんが一言、

“よく挫折した！おめでとう♪”“お前は真面目すぎるところがあるから、いつ挫折するかと思ってハラハラしていたが、今で良かった。もっと大人になってから挫折したのでは大怪我をして立ち直り方が分からなくなってしまふところだった。今挫折を経験することができて良かった、乾杯！”

挫折もまた人生の調味料。その経験があって今の自分がある。その経験のおかげでより味がある人生になっているんですね。

“命のしゃべり場”

光寿苑で取り組んでいるのが「命のしゃべり場」

まさに講演のタイトルである“どのように生きどのように最期を迎えるか”を語ってもらう取り組みです。これを始める時には賛否あり、職員からは「そんなこと年寄りに聞いてはいけないんじゃないかな」、家族からは「自分の親にはそんなこと聞かないでほしい」などなど…

ところがいざ始めてみると、入所者のお年寄りたちは、自分がどう生きてどのように最期を迎えるかについて、みな生き生きと語ったそうです。年齢を重ねているということはそれだけいろんな経験を持ち達観しているということ。職員や家族も入居者の思いや考えに触れ、相互の理解が深まったり、関わりが変化していったりと良い変化が生まれました。

「死」を語ることは「どう生きたいか」を語ることでもあるんですね。元気なうちにはなかなか話し合うことがないテーマですが、是非元気時こそ、身近な人や家族と語り合ってみたいものです。



MSWちょこっとコラム 地域包括ケアシステムって？

地域包括ケアシステムって聞いたことがありますか？前回の連携室だよりも少し取り上げているのですが、今後さらに進行する少子高齢社会に備えて、重度な要介護状態になんでも住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される仕組みのことです。



都市部では人口の増減は少ないですが、今度は急速に75歳以上の人口が増加することが予測されます。一方、町村部では75歳以上の人口の増加はゆっくりですが、人口は減少していくことが予測されます。

このように、高齢化と一言にいっても、その状況には大きな地域差があります。そのため、地域包括ケアはその地域の特性に応じて、市町村や都道府県が作り上げていくものとしています。

このシステムに、もちろん医療機関も組み込まれています。それぞれの地域で、その医療機関が求められている役割は何か、問われ始めています。

NEW FACE 新入職員のご紹介

皆さんはじめまして♪今年の6月に入職しました、医療ソーシャルワーカーの土門知佳(どもんちか)です。

前職では、長期療養型の病院で入院や退院に関する相談業務に携わっていました。

私は酒田市出身なのですが、酒田市出身で土門という苗字のため、患者さんやご家族さんに自己紹介をすると「土門拳さんの親戚ですか？」とよく聞かれます。残念ながら親戚ではないのですが、土門拳さんと関連付けて、名前と顔を覚えていただけると嬉しいです。

ぜひ気軽にお声掛けください(^^)よろしくお願いします。



編集後記

久しぶりのたより発行になってしまいました。連携室は新しいメンバーも加わり、気持ちも新たに、これからもいろいろな情報発信をしていけるよう、頑張っていきたいと思います。

さて、世間は先日の花笠まつりを筆頭に各地で夏祭り、秋祭りが開催されます。私は8月9日の天童祭りで保育園の二男と一緒に子供みこしに参加します！祭りが終わると今度は運動会と行事が目白押しです。この機会にたくさん体を動かしてスリムアップを図ります！